



デジタル化・ペーパーレス化に 向けた取り組み

滋賀県中小企業青年中央会

背景

令和2年度、新型コロナウイルス感染症の蔓延により、オンライン会議の導入の必要に迫られました。そこで、青年中央会では、この変化を機会と捉え、デジタル化・ペーパーレス化による資源の有効活用及び生産性の向上に向けて取り組むことにしました。

取り組み①（連絡方法の見直し）

従来、滋賀県青年中央会では、会員に対する案内・報告は、FAXや郵送でおこなっていましたが、連絡方法を、メールやラインに変更し、オンライン会議への対応及び事務局業務の効率化を図りました。（特に、役員会後の報告書は郵送でおこなっていたため時間を要し、また、紙を多く使っていました・・・）

取り組み②（地域経済活性化補助金の活用）

新型コロナウイルス感染拡大により、事業の縮小や自粛等の影響を受けている組合を応援するために、地域経済活性化補助金が新設されました。そこで、滋賀県青年中央会は、青年部が組合のデジタル化の先導役となるよう働きかけ、補助金の積極的な活用を推進しました。

例：滋賀県農業機械商業協同組合青年部会

青年部が先導し、補助金の活用を働きかけ、タブレット端末の導入・親組合でのオンライン会議をレクチャーし、業界のデジタル化を促進した。

取り組み③（役員会の完全ペーパーレス化）

従来、役員会の出席人数に応じて、紙で資料を印刷し、封筒に資料を入れ、事務局が開催場所に持参していましたが、資料は紙で印刷せず、データを送付し、各自タブレット端末を活用する完全ペーパーレス会議を導入しました。

削減推移 (役員会に係る紙の使用量及び費用)

上記3つの取り組みを通じて、

紙の使用量95%減、費用23,500円減を実現しました。

	R2	R3	R4
紙の使用量	2,751枚	332枚	162枚
費用 (発送費用含む)	23,800円	815円	405円

まとめ

紙の使用量や金額はそれ程大きな数字ではありませんが、デジタル化・ペーパーレス化に向けて確実な一歩を踏み出せました。

また、今ある人員で最大限の力を発揮する（生産性の向上）には、デジタルツールの活用は不可欠なのだと改めて認識しました。

今後は、更に一歩先のDXに向けて取り組みを発展させていきたいと思えます。

自分違ができることは何かを考え、小さなことからコツコツと！